

Friendly Awara

芦原町日本中国友好協会が あわら市日本中国友好協会へ

協会では、3月24日（水）、役員会を開催しました。役員会では、芦原町と金津町との合併に伴う、名称変更の議案等が付議され、本会の名称を「あわら市日本中国友好協会」とすることとしました。

今後は、市友好協会として関係機関と連携をとりながら、紹興市との交流事業を更に深めていきたいと考えています。



3月24日役員会付議・承認事項

名称変更について
本会の名称を「あわら市日本中国友好協会」に変更しました。

会則の改正について
芦原町と金津町との合併に伴い、会則中の字句について所要の改正を行いました。

附 則
上記の変更（改正）は、平成16年3月24日から施行することとしました

会員の皆さまへ

陽春の候 会員の皆さまには益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。
さて、芦原町と金津町との合併に伴い、本会は「あわら市日本中国友好協会」となりました。
旧芦原町と紹興市は、昭和58年に友好市町の関係を結び、これまでの間、様々な分野で多彩な交流を行い、着実な成果を収めて参りました。
市協会としても、魯迅先生と藤野巖九郎先生の友情の精神を引き継ぎ、これまで築き上げてきた交流を基礎として、関係機関と連携をとりながら、各種交流事業を積極的に推進する所存です。
両市の友好関係が新しいステップに向け、更に広がり、更に深まることができるよう、今後とも会員の皆さまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

平成16年3月

あわら市日本中国友好協会会長 齊 藤 五郎右エ門

芦原町・紹興市友好市町締結20周年記念事業 記念式典・シンポジウム を開催！

芦原町と紹興市の友好市町締結20周年記念式典・記念シンポジウムが紹興市からの訪問団や内外の関係者を迎えて、平成15年11月23日（日）・24日（月）に開催されました。

23日の記念式典（於：J A花咲ふくい芦原会館「瑞宝殿」）には、紹興市から馮順橋人民代表大会常務委員会主任を団長とする経済貿易視察団7人をはじめ、紹興市魯迅研究者代表団、芸能報道代表団、書画家代表団、婦人代表団の33人の方々が出席。芦原町からは奈須田和彦町長や見澤孝保町議会議長のほか、協会関係者100人余りが出席しました。

はじめに奈須田町長が、「合併後のあわら市においても、この20年間に育んできた友情を更に深め、強固なものにしなければならない」とあいさつ。

これに対し、馮順橋人民代表大会常務委員会主任も「交流の発展を確信している」と述べました。



24日の記念シンポジウムには、町民350人余りが参加。第1部は「藤野巖九郎が示した道」として、藤野巖九郎と魯迅の人となりや2人の先人が現在の両国民に与えた影響について意見を述べあうとともに、これに端を発した芦原町と紹興市の20年の歩みを振り返りました。第2部は「惜別～藤野巖九郎と魯迅」として、日中両国で今なお慕われ続ける藤野巖九郎と魯迅について、それぞれの研究者・専門家による意見交換が行われました。

また、シンポジウムの席上、社会科副読本「魯迅と藤野巖九郎」感想文コンクール（対象：芦原中学校1年生）入賞作品の発表が行われ、次の方々表彰を受けました。

（敬称略）

最優秀賞	伊藤真季
優秀賞	高山恵梨
優秀賞	北浦智揮
優秀賞	甚佐紗耶
優秀賞	橋本如子

記念シンポジウム

パネリスト・コーディネーターの皆さん

パネリスト

泉 彪之助 氏

（福井県立大学看護短期大学部名誉教授）

藤野 明 氏 （大阪市立大学名誉教授）

藤井 省三 氏 （東京大学文学部教授）

陳 越 氏 （紹興文理学院教授）

徐 東波 氏 （紹興魯迅記念館副館長）

奈須田 和彦 氏 （芦原町長）

齊藤五郎右エ門 氏 （芦原町日本中国友好協会会長）

丹羽 英史朗 君

（第17次芦原町日本中国友好親善少年使節団員、

芦原中学校3年生）

小林 那津希 さん

（第17次芦原町日本中国友好親善少年使節団員、

芦原中学校3年生）

コーディネーター

岡田 雄次 氏

（編集アソシエイツ代表、元中央公論社雑誌編集局長）

友好市町20周年記念事業 社会科副読本「魯迅と藤野巖九郎」感想文コンテスト



最優秀賞 魯迅と藤野巖九郎を読んで

芦原中学校1年 伊藤真季さん

志を抱きながら日本にやってきた魯迅は、意欲に満ちていただろうが、反面、言語の違う異国で心細い思いもしていただろう。藤野教授の心のこもった指導には、読んでいて私も胸がじいんとした。それは、国籍や言葉などで人を差別せず、学問を伝えようとする尊い心と、困っている人がいたら助けることは当然であるという姿勢がよく表現されているからだ。日清戦争に勝っておごり高ぶっていた当時の日本人の中で、自分を見失わない感覚が理知的ですごいと思う。

当時、魯迅は学校で何人もの教授の授業を受けていたはずであり、その中で唯一藤野教授だけを師と仰ぐようになったのは、同郷の人間としてとても嬉しいし、とても誇らしい。

魯迅は帰国後、内戦で混乱する中国を改善しようと努力するが、同じ中国人に弾圧されたり、勤務していた大学の同僚から不愉快な扱いを受けたりした。きっと誰も信じられなくなったときもあったのではないかな。私は、魯迅は自伝的小説「藤野先生」を書きながら、藤野教授との温かい思い出を何度も振り返ることで、人間への信頼をそのつど回復させたような想像をする。それがあってこそ決して人間に絶望することなく、文学者、思想家としてまっすぐ生き抜けたのではないだろうか。

藤野巖九郎にとって、日中戦争や長男の戦病死が心を打ちのめす、極めてつらい出来事となったことは、長男の死から8カ月後に亡くなったことから推察できる。魯迅もまた、混乱の続く中国の情勢に心の安まるときがなかっただろう。

もう少し平和な時代だったら、魯迅と藤野巖九郎の寿命も削られず、さらに師弟の交わりを深めることができただろう。また、それは日本と中国の関係をより良くすることに役立ったに違いない。

芦原町に戻ってから、藤野巖九郎は町の医者として患者を治療し、お金に困っている人からは治療費をとらなかったそうだ。学校の隣にある家は大きくないし、立派でもない。けれども、そのことから藤野教授の博愛の心がよく窺われる。

現代、魯迅はパソコンのワードの中にもその名が出てくるほどの著名人である。藤野巖九郎の名はパソコンからはすぐでないが、この本を読んだことで私の頭の中からは、人を差別しない人間愛に富んだ郷土の偉人として即座に浮かび上がってくる存在となった。



人物往来

第32次芦原町友好訪問団

第32次芦原町友好訪問団（団長：奈須田和彦芦原町長）一行5名が、平成15年10月15日（水）から20日（月）までの5日間、紹興市をはじめ中国主要都市を訪問しました。

この訪問団は、紹興魯迅記念館開館50周年記念式典及び第1回紹興魯迅文化芸術祭へ出席するため、紹興市の招きに応じ訪中したものです。

一行は、一連の事業への出席を通じ、中国の皆さんの魯迅に対する尊敬と敬愛の念を強く感じるとともに、改めて、日中友好の原点として藤野巖九郎の果たした功績に感銘を受けました。

このほか、友好締結20周年記念事業について、紹興市事務局（紹興市外事與僑務弁公室）との打合せを行いました。



<紹興魯迅記念館開館50周年記念式典>

魯迅展

主催 魯迅展実行委員会
(福井新聞社・福井テレビ・福井県)

～周海嬰（魯迅令息）ご夫妻、周令飛（魯迅令孫）氏が来市

平成16年3月5日（金）から14日（日）にかけて、県国際交流会館において魯迅展が開催されました。協会では、後援事業として藤野巖九郎記念館所蔵資料の貸出を行いました。

同展覧会は、平成16年が魯迅と藤野巖九郎とが会って100年目にあたることから、藤野巖九郎生誕の地：福井県で開催されたものです。上海・紹興魯迅記念館所蔵の国宝級の遺品の数々が展示され、期間中、10,000人を超える方々が来場されました。また、3月7日には、同展覧会の開催にあわせ訪日された、周海嬰（魯迅令息）ご夫妻、周令飛（魯迅令孫）氏、上海魯迅記念館張嵐副館長、紹興魯迅記念館金燕副館長らが藤野巖九郎記念館を訪れ、関係者との交流を深めました。



<魯迅展開場式：福井県国際交流センター>



<左から 周海嬰氏、馬新雲氏(周海嬰氏夫人)、周令飛氏：あわら市国際交流センター特別室>

第18次あわら市日本中国友好親善少年使節団

～あわら市として初の訪中

第18次あわら市日本中国友好親善少年使節団（団長：高嶋吉治前芦原町教育長）一行16名が、平成16年3月15日（月）から20日（土）までの6日間、紹興市をはじめ中国主要都市を訪問しました。この少年使節団は、旧芦原町が毎年派遣していたもので、今回で18回目。新生あわら市としては、初の訪中となります。

一行は、芦原中学校の友好校：紹興文理学院附属中学校の生徒と交流を深めたほか、万里の長城や天安門広場などを見学しました。

今回の訪中が、中学生の皆さんの今後の成長に大きな財産となってくれることを願っています。

第18次あわら市少年使節団として訪中されたのは、次の皆さんです。（敬称略）

団長 高嶋 吉治（前芦原町教育長）
 副団長 高岡 桂（芦原中学校教頭）
 指導員 浅原 信治（芦原中学校教諭）
 指導員 伊藤 しず香（芦原中学校教諭）
 団員 近藤 俊太（芦原中学校2年）
 団員 中田 泰寛（芦原中学校2年）
 団員 後藤 遥一（芦原中学校2年）
 団員 立田 祥平（芦原中学校2年）
 団員 前田 健吾（芦原中学校2年）
 団員 川崎 善大（芦原中学校2年）
 団員 平井 詩帆（芦原中学校2年）
 団員 石田 芽依（芦原中学校2年）
 団員 港道 恵（芦原中学校2年）
 団員 山口 紗央莉（芦原中学校2年）
 団員 竹田 汐里（芦原中学校2年）
 団員 向出 千尋（芦原中学校2年）



そのほか平成15年度は、次のような交流が行われました。（H15.4～H16.3）

- 4.16 紹興市人民代表大会友好訪問団（団長 蔣耀根紹興市人大常務委員会副主任）一行6名来町
- 9.26 紹興市経済貿易視察団（団長 金泉海紹興市越城区副区長）一行5名来町
- 10.24 紹興市経済貿易訪問団（団長 劉盛輝紹興市新昌県副県長）一行6名来町
- 2.1 紹興市友好交流事業協議団（団長 章光華紹興市外事與僑務弁公室主任）一行3名来町

平成16年は、藤野巖九郎・魯迅

出会い100周年

<魯迅著：「藤野先生」より抜粋>

～ 解剖学は二人の先生の分担だった。最初は骨学である。そのとき教室に入ってきたのは、色の黒いやせた先生だった。八字ひげをはやし、めがねをかけ、大小さまざまな書物をわきに抱えていた。その書物を机の上におくと、ゆっくりした口調で、なんどもつかえながら、学生にむかって自己紹介をはじめた - 「私が藤野巖九郎というもので……」 ～



<旧仙台医学専門学校 階段教室>



<旧仙台医学専門学校校舎>



<仙台市博物館：魯迅の像>

平成16年9月13日は、東北大学の解剖学教室で、藤野巖九郎と魯迅が出会った日から、100年目になります。

東北大学では、仙台市及び宮城県とともに実行委員会を立ち上げ、100周年記念事業を行うこととしています。

こうしたことから、これまで疎遠であった仙台市や東北大学との交流推進を図るため、奈須田前芦原町長が平成16年2月19日から20日にかけて仙台を訪問し、あわら市としての記念事業参加について協議を行いました。

協議のなかで、東北大学からは、10月22日に東北大学階段教室で記念式典を、翌23日に別会場で記念イベントを挙行する予定であり、その際に藤野巖九郎記念館所蔵資料の展示を依頼したいとの意向が示されました。

また、仙台市では、あわら市の記念事業の参加について前向きに取り組みたい旨の意向が示されるとともに、芦原温泉と仙台市内の秋保温泉との温泉観光地間の交流促進も提案されました。

平成16年度は、新たな交流の芽生えが期待できそうです。

平成16年度あわら市日本中国友好協会 総会のお知らせ

- と き 平成16年5月18日（火）13時30分から
 ところ あわら市国際交流センター（旧芦原町国際交流センター）
 日 程 13時30分～ 総 会
 14時30分～ 記念講演「小さな町に実った友好交流の歩み」
 講師 呉 紅華氏（大東文化大学講師）

呉 紅華氏は、昭和58年(1983年)の友好市町調印の際に紹興市人民政府外事弁公室の職員として通訳を務め、現在は大東文化大学中国語学科講師としてご活躍されています。